

米中の景況感は製造業の足腰の弱さを示唆



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 中国の景気回復ペースに鈍化の兆し

中国国家統計局が4月30日に発表した4月の中国製造業PMIは49.2（市場予想51.4）と3月の51.9から低下し、好不況の分かれ目の50を下回りました（右上図）。同PMIの内訳をみると「生産」が50.2と前月から4.4ポイントの大幅低下となったほか、「新規受注」が48.8と前月の53.6から大きく落ち込みました（同図）。世界の需要鈍化の影響が中国の製造業に及んでいることを示す結果だったといえます。また同日発表された、サービス業の景況感を表す4月の非製造業PMIも56.4（同57.0）と3月の58.2から低下するなど、拡大ペースに一服感がみられます。

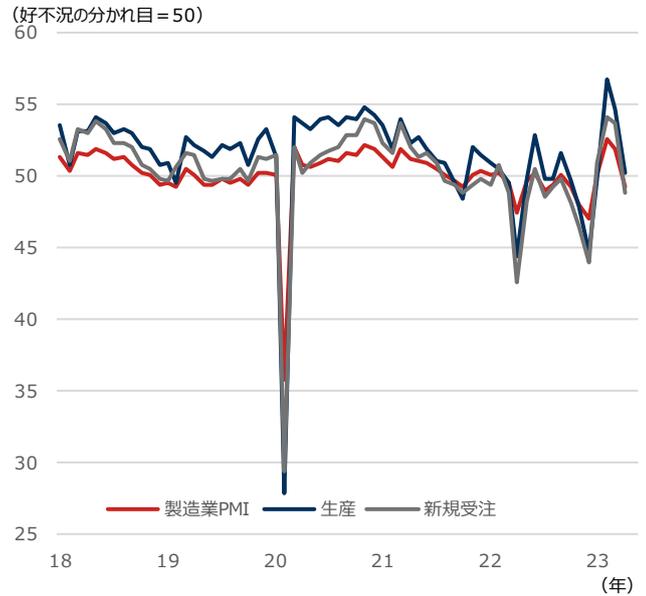
中国共産党指導部は4月28日、国内の景気回復には強力な財政・金融支援の継続が必要との認識を示しており、当面は当局の景気下支え策がどの程度中国経済を浮揚させられるかが焦点となります。

ポイント② 米製造業の低迷が長期化している

一方、米国で5月1日に発表された4月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は47.1（同46.8）と前月から0.8ポイント改善したものの、6ヵ月連続で好不況の分かれ目の50を下回りました（右下図）。6ヵ月連続は09年以来の長さで、米製造業の低迷が長期化していることが示されたといえます。

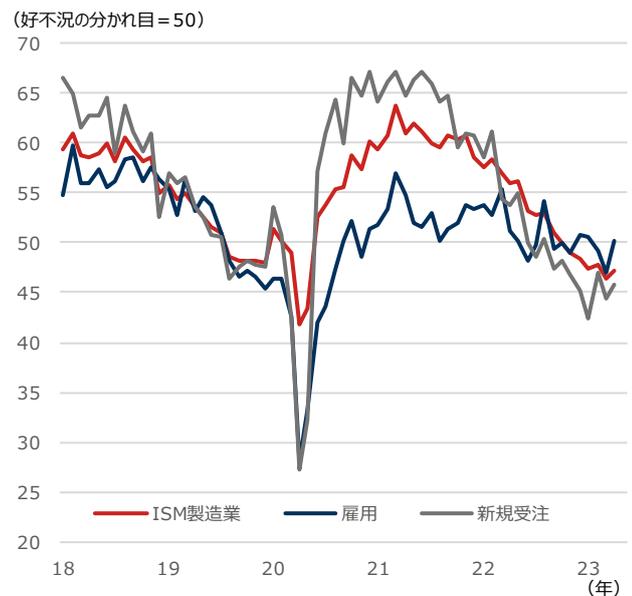
内訳をみると、「新規受注」が45.7と8ヵ月連続で50を下回ったものの、前月の44.3からは改善したほか、「雇用」も50.2と前月の46.9から上昇するなど、景況感の先行きに対して明るい兆しもみられます。ただ、世界的な金融引き締めによる景気鈍化の影響が続く可能性もあり、米中製造業の足腰の弱さは当面続きそうです。

中国製造業PMI（購買担当者景気指数）とその内訳



期間：2018年1月～2023年4月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM製造業景況感指数とその内訳



期間：2018年1月～2023年4月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。